



40の瞳 鞍岡中学校最後の生徒(閉校式での合唱)

慧え

光こう

金光寺寺報
第177号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

信心ひとたびおこりなば 煩惱を断たで涅槃あり

三月の法語は「和訳正信偈」の第七首前半です。「正信偈」では、
能発一念喜愛心 不断煩惱徳涅槃
よく一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり。
という偈文にあたります。
—私どもは、曠劫のいにしえより迷いの海に浮き沈みを繰り返して、そこから離脱できる縁は全くなかったのです。そのような私どもに、阿弥陀さまは飽くことなく大慈悲のお育てのみ手を差し伸べてくださって、今やっと「他力の信」に目覚めることができました、という感動の心が「よく……発す」のご文になっているのではないか、ということです。「信心ひとたびおこりなば」にその感動の心がうかがわれるでしょう。

そして、「断煩惱」すなわち凡夫が自ら煩惱

を断ち切ることは不可能であり、自分の努力で迷いから離脱する道はないということになります。親鸞聖人は、比叡山において二十年もの間、その苦悩の道を歩まれ、絶望に沈まれて法然聖人を訪ねることになられたのでした。そして、この絶望に沈む凡夫に代わって、煩惱を断絶する「行」が、阿弥陀さまの「五劫思惟の願、兆載永劫のご修行」であったこと、その成果が名号「南無阿弥陀仏」に凝縮されて「これを受け取ってくれよ」と喚びかけられていることを教えられたのでした。

すなわち、私の方は、煩惱具足のまま、煩惱を断つことのできないままでありながら、阿弥陀さまのおはたらきによって、名号のはたらきによって、涅槃のさとりを完成(成就)することのできる身となるということなのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 3月 15日(火) 終日
17日(木) 午前中
28日(月) 午前中
- 4月 9日(土) 午後~
12日(火) まで
- 5月 21日(土) 午後~
26日(木) まで
- 6月 1日(水) 午後~ 終日
2日(木)

2月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。
2016年 2月 1日 寂 満99歳
芋の八重 渡 邊 ユ キ 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
3月9日現在 アクセス数 77,084人

が！
(住職 松井卓郎)

鞍岡中学校の閉校式、覚悟はしていましたがやはりつらく寂しいものでした。特に校旗返納の際、生徒から生徒へ校旗が手渡されていく時、思わず涙してしましました。周りからもすすり泣く声や聞きえ、いよいよ、母校が無くなってしまつたのだなと感じた瞬間でもありました。母校は無くなりませんが、卒業生の心にはいつまでも校歌の最後にあるように「栄えあれその名千万代に」と思ふことなのです。今月九日は私の誕生日でした。最近まで誕生日というだけで特に意識することも無い日でしたが、レミオロメンというグループが「3月9日(さんがつこののか)」という楽曲をリリースし、この曲が二〇〇六年から卒業ソングランキングで見事五連覇を達成、殿堂入りしたことを知り、とても誇らしく思うことのできる日になりました。耳にしたこともない曲だと思っていたのですが、インターネットで検索し聞いてみると耳にしたことのある曲でした。でも、私にはラブソングに聞こえるのです

仏教用語豆辞典

脱 だつ 落 らく

プロ野球のペナントレースも真夏の陣を迎え、いよいよ優勝争いも佳境に入ってきました。しかし、もうすでに優勝戦線から脱落したチームのファンに

は、なんとも淋しいシーズンになりそうですね。「脱落」は、文字通り、落ちること、文章の中の必要な語句や文字が抜けることや、一緒にやっていけなくなつて、仲間からとり残されることをいいますから、あまり良い意味では使われていませんね。「脱落」はもともと、仏教、とくに禅宗ではよく用いられる言葉で「捨て去る」という意味です。我が捨て去られ、とられなくなること、束縛がなくなること、をいいますから、「解脱」

と同じ意味です。「心身脱落」という語句も見受けられます。このように、脱落は煩惱を払い捨て去りの境地に入ることを意味する語ですから、本当は喜ばしいことなのです。優勝争いから脱落したチームのファンの中には「まあ、こんなものサ」と、やけに悟り顔をしている人もいるとか……。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇PART-1から)

住職ひとりごと

お彼岸

彼岸とは、念仏の教えをいただいたものが、いち終えて生まれていくさとの世界。仏となった懐かしい方々がおられる、阿弥陀如来の西方浄土のこ

とである。善導大師はお示しになる。

西の岸の上に人ありて喚ばひていはく

なんぢ一心正念してただちに來れ

われよくなんぢを護らん

阿弥陀如来は、「必ず救う、われにまかせよ」と、西の岸よりよびかけておられる。如来のよび声は、南無阿弥陀仏の名号となつて、今この私に届いてい

る。如来に抱かれ、先に浄土へ生まれた方々に導かれて、彼岸へと続けただ一つの道、念仏の道を歩むのである。

(『拜読 浄土真宗のみ教え』四十頁)

ここ数日、暖かい日が続いていきます。今日(八日)の最高気温は二十一度を超えました。しかし、十一日からは再び最低気温が氷点下二度くらいになる予報です。この繰り返しで本格的な春を迎えるのでしょうか。

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、今月十七日から一週間は春のお彼岸です。二十日はお中日。太陽が真東から昇り真西に沈む日。日本人は古来より、陽が沈む西方に極楽浄土への想いをはせてきました。

私事ですが、前任職(父)は祥月命日が三月十八日です。春彼岸期間中の往生でした。そういうこともあって、春彼岸を迎えると父を思い出します。今年父の十三回忌を迎えました。少し早かったのですが、今月四日に法要を営んだ後、叔父夫婦、姉夫婦、埼玉在住の従姉妹と我が家の三人、合計八人でお斎をいただきながら父の思い出話をしたことでした。

今月は「拜読浄土真宗のみ教え」から「お彼岸」という法話を掲載しています。

この法話を読みながら、懐かしい方々(私にとっては先に行つた両親が特に懐かしい存在なのですが)のお導きを受け、阿弥陀さまのお呼び声「必ず救う我にまかせよ」を聞きながら、何ものにもさまたげられることのない「念仏無礙の一道」を歩ませていただくばかりとの思いをより一層強くしたことでした。

いつか必ず娑婆の縁尽きる日が参ります。しかし、その日は阿弥陀さまのおはたらきを、お慈悲をたまわり、極楽浄土へ救われ、さとの智慧をいただき、尽きることのないのちの世界に生まれさせていただく日です。

俱会一処。先にお浄土へ救われていかれた懐かしい方々と再び会わせていただくさとの岸、「彼岸」をお感じいただける二〇一六年弥生三月のご縁がありますようにと念ずるばかりです。

二〇一六年春季彼岸会法要のお知らせ

日時 三月二十日 午前九時三十分
場所 金光寺本堂
勤行 正信念仏偈(草譜)六首引き
その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。会員の皆さまのご参詣をお願いします。

一般の門信徒の皆さまのご参詣もお待ちしております。法要終了後、仏教婦人会の総会を行います。



法語の世界

〈原文〉

行くさきむかひばかりみて、あしもとをみねば、踏みかぶるべきなり。人のうへばかりみて、わが身のうへのことをたしなまずは、一大事たるべきと仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百九十一)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「行く先だけを見て、自分の足元を見ないでいると、つまづくに違いない。他人のことだけを見て、自身のことについて心がけないでいると、大変なことになる」と仰せになりました。

〈用語の解説〉

踏みかぶる……踏みはずして水たまりや穴などに落ち込むこと。
たしなまずは……心がけなければ。